和歌山から元気を送ります！

はぁとこむ通信

第１３号　2014 秋号
発　　行　株式会社コムテック
和歌山市西浜1038番12
http://www.komura-g.jp/komtech/
編 集 人　企画営業部　貴志

～「稲むらの火」と「濱口梧陵」～

ヤマサ醤油7代目当主
濱口梧陵

９月は**防災月間**です。それにちなんで、今回はひとつの有名な物語をご紹介いたします。
皆様は「**稲むらの火**」という物語をご存知でしょうか？この物語は江戸時代の震災に関するお話で、紀州・広村（現在の和歌山県広川町）に住んでいた「**濱口梧陵（はまぐちごりょう）**」という人物がモデルになっています。

濱口梧陵は、実業家でもあり政治家でもありました。醤油醸造業（現:ヤマサ醤油)の7代目当主から始まり、明治4年（1871）には、**大久保利通**の命を受けて**初代・駅逓頭（えきていのかみ／郵政大臣）**に就任して近代的な郵便制度の創設にあたり、また明治12年（1879）には和歌山県議会の初代議長にも選任されました。
梧陵は私欲を顧みない「社会福祉事業」「医学支援」「政治活動」に力を注ぎ、近代日本の発展に大きな足跡を残しただけでなく、**佐久間象山、勝海舟、福沢諭吉**など多くの知識人との広い交流も持っていました。

では、ここからは「稲むらの火」の物語を簡単にご紹介します。

江戸時代末期、紀州・広村（現在の和歌山県広川町）の高台に、**五兵衛（＝濱口梧陵）**という男が住んでいました。ある日、大地震（安政南海地震）が村を襲いました。
自宅にいた五兵衛は、その激しい揺れと、高台から見える海岸の潮の引きの様子から、大きな津波が来る事を予感しました。しかし村を見下ろすと、村人が村祭りの準備に夢中で、津波に全く気付いていません。「このままでは村人が津波の犠牲になってしまう・・・」と考えた五兵衛は、自分の田んぼにある全ての **稲むら（＝刈った稲の束）**に火を放ちました。
この火を見て、海の近くにいた村人は五兵衛の家が火事だと思い、五兵衛を助けるべく火を消そうと、高台へ上がってきました。村人が高台へ集まった頃、振り返り海岸を見ると、村は瞬く間に津波に飲み込まれてしまいました。
それを見た村人達は、五兵衛の放った「稲むらの火」によって命が救われたんだと気づき、言葉を失い、そのまま五兵衛の前でひざまずきました・・・。

濱口梧陵 像（稲むらの火広場）

物語ではここまでです。（このお話は幾つかの説があり、今回はその中の一例をご紹介しています）

この地震以降も、梧陵は財産を投じて村の復興に尽力するとともに、**堤防**を立てるなどして、津波を警戒する心を忘れず、人々へ語り継いでいきました。この濱口梧陵のとった行動は世界的にも知られており、日本でも「稲むらの火」として、紙芝居や小学校の国語読本に採用されたりと防災教育に役立てられています。

皆様も、この機会に今一度、**防災**について話し合ってみてはいかがでしょうか・・・？

コムテック営業カレンダー（平成26年9月～平成26年11月）

9月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6 休
7 休	8	9	10	11	12	13 休
14 休	15 休	16	17	18	19	20 休
21 休	22	23 休	24	25	26	27 休
28 休	29	30				

10月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4 休
5 休	6	7	8	9	10	11 休
12 休	13 休	14	15	16	17	18 休
19 休	20	21	22	23	24	25 休
26 休	27	28	29	30	31	

11月

日	月	火	水	木	金	土
						1 休
2 休	3 休	4	5	6	7	8 休
9 休	10	11	12	13	14	15 休
16 休	17	18	19	20	21	22 休
23 休	24 休	25	26	27	28	29 休
30 休						

イチオシ商品　第3弾 “音声認識人形 おしゃべりまーくん”

おしゃべりまーくんは約７００の言葉をしゃべる5歳の男の子です。
5歳のかわいい男の子の声でおしゃべりします。

メーカー：パートナーズ
定価：18,000円(税抜)

- 高性能の音声認識ＩＣチップが内蔵されており、声をしっかり認識し、触るとかわいくお返事する多彩なセンサーも内蔵しています。
- ひとり言を話すこともあり、ついついかまってあげたくなる愛らしさです。
- 時間お知らせ機能や目覚まし機能、季節を一緒に感じられるカレンダー機能を搭載。
- 季節ごとの歌や好きな歌をたくさん歌います。ちょっと苦手な歌もあるけれど、一生懸命歌ってくれます。

話して・聞いて・元気になれる！まーくんとおしゃべりすることで毎日がぐんと楽しくなります。ご家族の方から、両親や祖父母へのプレゼントとしていかがでしょうか？

※デモ機ご用意できます。お問い合わせはコチラ
TEL：073－444－4139　デモ機担当まで

季節コラム　“ おはぎ と ぼたもち ”

「暑さ寒さも彼岸まで・・・」

お彼岸になると、「ぼたもち」や「おはぎ」を食べる習慣があります。そもそもこの「ぼたもち」と「おはぎ」何が違うのでしょうか・・・？
これには色々な説がありますが、基本的にはこの２つは同じもので、大きな違いは「呼び方」です。

この２つを漢字にしてみましょう。すると「牡丹餅」「お萩」と書きます。
ぼたもちは、牡丹の季節である春のお彼岸で食べます。小豆の粒が、牡丹の花ビラによく似ている事から、それに見立てて『牡丹餅』と呼ばれるようになりました。

一方、おはぎも同様で、萩の季節である秋のお彼岸で食べます。小さくいっぱい咲いている萩の花を見立てた事から「おはぎ」と呼ばれるようになったと言われています。
他にも、大きさ、あん（こしあん・粒あん）、米、作り方等の違いの説もございますが、最近では年中『おはぎ』で通すお店が圧倒的に多くなっているようです。

ちなみに余談ではありますが春の牡丹餅、秋のお萩だけでなく、実は夏と冬にも呼び名があって、夏は「夜船(よふね)」、冬は「北窓(きたまど)」と呼ばれるそうです。

日本ならではの風物詩、これからも大切にしていきたいものですね。

※この通信は 9/1～9/10 迄のご注文商品に同梱させて頂いております。